

# 平成29年度 各種調査結果等を活用した学力保障の取組事例

事務所名	中部教育事務所	学校名	花巻市立桜台小学校	TEL	0198-24-6066
------	---------	-----	-----------	-----	--------------

## 校内研究推進による授業力向上と家庭との連携による学力向上の取組

### 【今年度の目標】

国語：「書くこと」領域を県比100に近づける。

算数：全ての領域を県比100に近づける。

質問紙：以下の項目の「あてはまる」の数値を高め県比100に近づける。

- ・5年生までに受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。
- ・5年生までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。
- ・5年生までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか。

### 【組織的な対応を図る上で工夫した点】

- I 各種調査を活用した学力保障の取組
- II 全校共通課題を軸とした校内研究の推進による授業改善の取組
- III 学習内容と連動した家庭学習による学習内容定着の取組



研修会：全国学調を全教職員で解く

### 【具体的な取組】

#### I 各種調査を活用した学力保障の取組

##### 1. 各種調査を基にした研修会

<第1回：6月15日>

平成29年度全国学調国語「書くこと」領域の問題を全教職員で解き、「今求められている力」と「指導の改善」について協議し、共通理解を図る。

<第2回：8月31日>

平成28年度県学調結果に基づき重点指導事項を洗い出し、系統表を作成。課題と対策について共有する。

平成28年度岩手県学習定着度状況調査に基づく重点指導事項系統表№1

～県正答率との比較でマイナスポイントの大きい問題～

本校の重点領域	4-(2) わり算のきまりを使って、工夫した筆算の答えを求めることができる。	5-(2) がい算のはんいの表し方を理解している。	13 いろいろな四角形の対角線の特徴(2本の対角線が直角に交わる四角形)を理解している。	16-(2) 比例の関係をとらえ、式に表すことができる。
学習指導要領との関連 (主な観点)	4年 数と計算(3)ウ、エ 《数量や図形についての技能》	4年 数と計算(2)イ 《数量や図形についての知識理解》	4年 図形(1)イ 《数量や図形についての知識理解》	5年 数量関係(1)ア 《数学的な考え方》
正答率(県比)	36.9%(49.9)	48.6%(76.7)	33.3%(68.6)	42.3%(67.2)
関わる学年の単元	第1学年 10よりおおいかず おおいかず	おおいかず	かたちあそび かたちづくり	
	第2学年 かけ算(1) かけ算(2)	3けたの数 4けたの数	長方形と正方形	
	第3学年 かけ算 わり算 あまりのあるわり算 大きい数のわり算	大きい数のしくみ	三角形と角	□を使った式
	第4学年 わり算の筆算(1)ーわる数が1けた わり算の筆算(2)ーわる数が2けた 計算のきまり	大きい数のしくみ がい算の表し方 小数のかけ算とわり算	角の大きさ 垂直・平行と四角形	変わり方調べ
	第5学年 小数のわり算	小数のわり算	合同な図形 図形の角	比例 四角形と三角形の面積 正多角形と円周の長さ
	第6学年			比例と反比例
対策	・何をもとにしているか ・「0をひく消す」というような形式的処理のみにならないように ・たし算・ひき算でも何を1とみるか	・位、数の大小比べ ・言葉の違い(以上、以下、未満)の理解 ・数直線でイメージ	・定数 ・算数用語 ・自分で補助線や書き込む習慣 ・「高さ」と「直角三角形」をつなげる考え方	・図と表を関連付ける ・○や□を使った式に慣れさせる ・比例定数をとらえる

調査結果から  
明らかになった  
課題とされる内容

内容に関わる  
各学年の単元

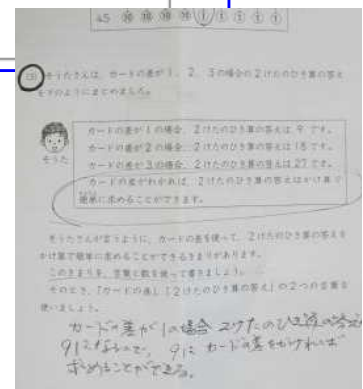
重点事項に対する  
具体的な指導、  
課題への対策

<第3回：9月28日>

平成29年度全国学調結果に基づき重点指導事項を洗い出し、課題と対策について共有する。

#### <共有した対策(一部)>

- ・問題文を読む際の線を引く、言葉を囲む等の手法を指導し、常に行わせる。
- ・式だけでなく根拠や図を含めた説明を書かせる。
- ・自力解決の時間を確保する。(書かずに終わることのないように下位の児童への個別の支援)
- ・教科書の「○○さんの考えを説明しましょう」という問題を大切にする。
- ・図式化は教科書「マイノートをつくらう」を参考にする。



全教職員で解いた正答率の低い問題(算数A問題)

## Ⅱ 全校共通課題を軸とした校内研究の推進による授業改善の取組

### 1. 全校共通課題をもとにした校内研究の推進

(1) アクションリサーチとリフレクションを中核とした教師個々の授業力向上を目指した校内研究の推進

＜本校のアクションリサーチ＞

- ・ 共通課題と個人課題の二つの側面からアプローチする。
- ・ 児童の実態と教師個人の指導実態に応じた具体的で焦点化された個人課題の設定を行う。
- ・ 教科研究部会を組織しチームで学び合う。  
(事前研究会, ワークショップ型の事後研究会)
- ・ 実践を振り返り, 有効な手立てと課題を明らかにする。  
(授業者, 参観者による振り返りシートの蓄積)

(2) 個人課題と共通課題に基づく授業改善の取組

- ・ 児童の学ぶ意欲の向上を図り, 他と関わり合いながら学ぶことの必要性を感じられる授業を目指す。

＜共通課題＞子どもの学習に取り組む意欲を高めるための「授業改善の視点」(下の2点)を共通課題とした。

- ①意欲の喚起 ②学び合い

＜個人課題の例＞

国語部会	自分の考えを持ち, 進んで表現する児童の育成 ～児童が意欲的に取り組む言語活動の工夫を通して～	算数部会	「わかる楽しさ」「できる喜び」をどの子どもも実感できる授業づくり ～板書を基にした学び合いと振り返りの活動を通して～
	進んで学習課題に取り組む児童の育成 ～見通す場(単元・単位時間)と振り返りの場を位置付けた指導を通して～		自分の考えを表現し, 共に学び合うことができる子どもの育成 ～学び合いの視点を明確にした授業作りを通して～ 楽しみながら, 自分の考えを進んで表現しよう
	自分の思いや考えを言葉で伝え合うことのできる児童の育成 ～思いや考えを交流・発表する場の工夫を通して～		

(3) 自己肯定感を高めるための場の設定

- ①ペア学習, グループ学習における児童相互の認め合い
- ②振り返りでの「自分の学び」「友達からの学び」の確かめ合い

＜第5学年 学級活動指導案の例＞

段階	学級活動	
導入	<p><b>1 たてわり弁当会の様子を思い出す</b> ○下級生への関わり方はどうだったか振り返る。</p> <p><b>2 本時のねらいを知る</b> ○次回は「遊び会」であることを知り, 課題意識をもつ。 <b>下級生へのやさしい接し方を考えよう</b></p>	<p>☆視点1 意欲 実際の活動を振り返ったり, 次の活動を知らせたりすることで課題意識につなげる。 ・下級生への思いやりある接し方について考えたい。</p>
展開	<p><b>3 事例をもとに下級生との接し方について考える</b> 事例1・・・泣いて遊びには入れない1年生 ○NG例の何がよくないのかを考える ・言葉遣い ・乱暴 ・無理やり ○それぞれのグループの改善策を知る。 ○関わり方のポイントについてまとめる ・○○さんと声をかける ・教えてあげる</p>	<p>☆視点2 学び合い ★個人課題 NG例を改善するポイントを知らせ, 個人→グループ→全体で「どんな接し方」がよいかを考えさせる。(ホワイトボード使用) ・グループで協力して, 関わり方の改善策を考えている。</p>

共通課題(視点1: 学習意欲の喚起, 視点2: 学び合いの有用感)と個人課題の手立てを明記。授業後は, これらの手立てが有効であったかを中心に協議する。

グループ, 全体での学び合いにより, 児童相互の認め合いの場を設定。

5年総合的な学習の時間(米づくりに学ぶ)イメージマップを基に決めた自分の課題についてのグループ交流。



1年算数(たし算) ペアでお話をしながらブロックを操作。



4年国語(一つの花) 読み取ったことをノートに書き, ペアで交流。





(4) 授業実践後のリフレクション

- ・ 研究授業、事後研究会を通しての教師(授業者、参観者)の学びや気づきを「振り返りシート」にまとめる。

<授業の実践>



<部会研究会>



<WS型研究会後の検討シート>



<研究会後にまとめた振り返りシート>

授業者の振り返り

※子どもの成果や課題を記すと共に、研究協議や他の先生方の感想を記す授業者自身の学びや気づきを書き留める。

作成日 6月13日(火)

〈個人研究に関わって〉

- ・「数」に興味をもてるような手立てとして「ぜんぶで・みんなで・あわせて」などのことばに、まずこだわらせた。それがたすこと一たしざんなのだということに帰着させたかった。だいたいの子どもはここまで理解したと思う。それと本時の「ふえと」の違いはどこまで理解できたのかわからなかった。子どもたち自身のふり返りの評価は高かったが。
- ・本時の中心である合成と増加のちがいは「ガッシャン」と「カーン」の言葉を生かした。
- ・共通課題とも関わるが、ペア学習では話型をもちいて、話すことをあ習しての発表の仕方にした。どちらかというと話ができる女子を先にはきはきと話して、ペアの形はできていたと考える。大きな声の発表
- ・少々難のある練習問題にとりくませた形になった。時間の都合上だろう挑戦をさせるような形にはなった。絵が重要だったにも関わらず、が猛反省。
- ・練習問題でもブロック操作を入れてみるべきであった。
- ・お話をしながらブロック操作をすることが弱かった。

〈共通課題に関わって〉

- ・前時想起が弱かった。準備していた流れを自分から崩したので、大切
- ・ペア学習とはこういうものか、といった初期の段階での興味をもたせ

授業者の振り返り

参観者の振り返り

参観者の振り返り(参観授業・研究協議を終えての学びや気づき)

作成日 6月26日(月)

- 1年1組国語科「おむすびころりん」
- ◇視点1(意欲の喚起)にかかわって
  - ・いつも通り単元の流れと単位の学習の流れが明確に示され、当該学級では見通しをもった学習が日々繰り返されていることがわかった。ただ(学習の流れの)掲示物の文字数が多く、低位の子どもにとっては情報量が多すぎるように思われた。1年生であるので、短い言葉で示すことを考えていきたい。(ふりかえりシートも同様)
- ◇視点2(学び合い)にかかわって
  - ・ペア学習での話型がきちんと示され、児童全員のノートに貼られていた。子どもたちは、それを見ながら音読の工夫を学び合っていた。話型のプリントを手がかりにというのは難しい子もいたが、ペアの相手にプリントを示されながらできており、有効だった。単元を通して同じ話型での学び合いを繰り返すことで、1年生でもできるように感じた。
  - ・友達の(音読の)工夫したことに対して感想を話すのは、なかなか難しいと思った。それぞれが音読する文を選択したことで、より難しくなっていた。この時期の1年生であれば同じところ(例えば「おむすびころりんのうた」等)をそれぞれ工夫する、のもよかったのではないかなと思う。その活動であれば、自分の工夫と比べながら相互評価しやすかったと思う。
  - ・「それぞれが、工夫して音読したいところを選択する」ことが、何を根拠に選択するのかがはっきり把握できていなかった。音読の工夫があくまで「読み」のため言語活動であることを考えると、場面の読みを根拠にした選択の仕方を、子どもにどうおろすかが改善の余地ありと感じた。
- ◇その他
  - ・場面の読み取りでは、子どもの発言に対して「何て書いてあるかな」「どこに書いていますか」等叙述に返す切り返しが続けられた。授業者の「根拠をもった読み」という意識が感じられた。
- ◇感想
  - ・少し活動量が多いかな、目標が少し高すぎるかなという授業であったが、子どもたちはなんとか食いついていこうと頑張っていた。こうやって当該学級の子どもたちは鍛えられるのだなと感じた。あとは、そこについてこれない子にどう支援していくかの手立てがあれば、どの子にも十分に力が付いていく授業であると感じた。

2. 教師自身による授業の評価

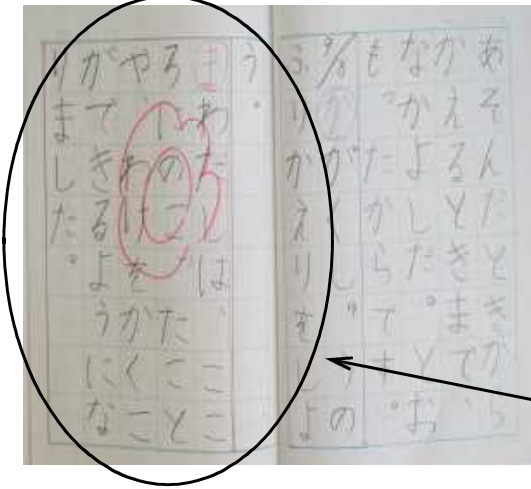
<達成数値の低い項目>

評価項目	あまりできていない	できていない
全教科において、書く活動を位置付けているか。	45%	0%
授業の終末に、「授業の振り返り」の時間を位置付けているか。	45%	3%
新たな学びがある学び合いを組織しているか。	59%	4%

<1学期評価集計から共有した成果と課題>

- ・ 課題を設定し、課題(めあて)と課題解決後のまとめをノートに記述することが概ねできている。
- ・ 授業の終末段階の時間の不足が考えられる。単位時間におけるねらいに沿った学習活動の精選と授業の構成が課題である。
- ・ 「書く活動」が位置付けられないのはなぜだろう。教師主導の授業になってはいないか。児童一人ひとりが課題に向き合う(自力解決)時間は確保されているか。「考える」「話す(読む)」「書く」ことが1時間の中にちりばめられているか。「聞く」だけになってはいないか。授業構想について改めて検討する必要がある。
- ・ 「振り返り」は色々なかたちがあってよい。その時間の自分の学習についての達成感や有用感を自覚できるようにする。

3. 日常の授業改善による授業力向上の取組
- 全教科において「書く活動」を位置付けた授業を展開する。
    - ①自分の言葉で説明する活動（予想、自力解決等）
    - ②「学習の振り返り」での書く活動  
(授業での学び、自分の変容、友達からの学び)



＜1年国語＞  
・振り返りで位置付けた書く活動。  
・授業の学び、自分の変容を書き表している。

「書く活動」を位置付けた授業実践報告書		
＜1年生の例＞		
教科	単元名	「書く活動」のねらい・場面・内容等
国語	おはなしを たのしもう 「ゆうやけ」	・場面の読み取りでは、好きな場面とそのわけを書かせた。「ぼくは～が好きです。わけは～だからです。」という書き方を繰り返した。前時に書いたものを紹介することで、よい表現ができるようになってきた。
＜6年生の例＞		
算数	速さの表し方 を考えよう 「速さ」	・課題に対する自力解決 ・自分の考えを説明するために、式だけではなく言葉の書き込みをさせた。 ・友達への考えも書かせ、まとめや練習問題で活用できるようにした。 ・ポイントなどを自分なりに工夫して書く。 ・学んだことの振り返りをする。

Ⅲ 学習内容と連動した家庭学習による学習内容定着の取組

1. 学習内容と連動した家庭学習
- 家庭学習の意義について家庭への周知と協力を得るため、年度当初「家庭学習の基本的な考え」「家庭学習のてびき」を配布。学習時間や学習の約束等示した。

家庭学習の基本的な考え

**復習を大切にしたい家庭学習**とは

前回は「ここでは、もう一度しっかり復習してほしい」と考えた課題を家庭学習として出します。子どもたちが、家庭で今一度その内容を学習することで、確実に学習の定着を図ることができます。そして、次の日には、家庭での学びを生かした学習を展開することにつながります。これが、効果と連動する家庭学習です。\*

**予習を大切にしたい家庭学習**とは

予習をすると、忘れていた学習内容を思い起こしたり、これまで身に付けた知識を用いて解決しようとしていたりします。それにより、問題意識をもって授業に臨むことができます。\*

**発展的な学習の内容を含んだ家庭学習**とは

子どもの興味に応じた学習を行います。その内容としては、学習に関する本を読むこと、各種辞典等を利用して調べること、施設等へ行って見学や鑑賞を行うことがあげられます。このような主体的な学習により既存の知識のより一層の定着や新たな興味・関心の喚起につながります。\*

【家庭学習の基本的な考え】

2. 家庭学習強化月間の取組
- 年間3回の家庭学習強化月間を設定。
    - \*第1回 6月5日～30日
    - \*第2回 11月6日～30日
    - \*第3回 2月5日～28日
  - 学年ごとに「ねらい・内容」と「意欲をもたせるための手立て」について検討し、計画書を作成。具体的内容については学年通信で家庭へも知らせ、理解と協力を得られるようにした。
  - 4週間の取組後は担任団で成果と課題について確認し合い、次に生かせるようにした。

平成29年度 高学年 家庭学習のてびき 花巻市立桜台小学校

学習時間の目安	60分以上	学習の約束	(1)学習する時間を決めて取り組みましょう (2)テレビを消して学習しましょう (3)終わったら見直して、間違えたところは直しましょう (4)分からないところは、あとで、先生に聞きましょう
---------	-------	-------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習の手順

はじめに 学校の宿題に取り組みましょう。

つぎに 一人勉強でこんなことを勉強してみましょう。

国語

- 習った漢字の練習をする。
- 新出漢字や読み替え漢字の読み方や書き順を調べ、練習をする。

その他に

- 都道府県の産業や、特産物、地域の特色などをまとめる。
- 歴史上の人物の名前や顔、出来事等を調べ

【家庭学習のてびき（高学年用）】

＜家庭学習強化月間計画表 5年生の例＞

第5学年 家庭学習強化月間計画表		
6月	ねらい・内容 ①決まった時間に学習できるようにする。 ②課題と自主学習の双方ができるようにする。	意欲をもたせるための手立て ①お互いの頑張りや工夫を見合えるように、週に一度の学年ノート交流会をする。 ②ノートの使い方の再指導（日付、学習時間、学習内容の明記） ③「学習の手引き」に学習の仕方、ノートの使い方、各教科の自主学習にお勧めの学習内容を提示。ノートの裏表紙に貼り、いつでも参考にできるようにする。 ④「学習の手引き」を家庭に配布し、家と学校での支援が同じになるようにする。
＜成果と課題＞ (1) 成果 ①自分の決めた時間に学習しようとする子ども、毎日学習する子どもが増えた。 ②課題と自主学習の双方を家庭学習に内容として取り組むことができるようになってきた。「学習の手引き」を家庭配布したり、ノートやファイルに貼ったり綴じたりしたことが、手引きを参考に学習内容を選ぶことにつながった。		



強化月間の取組として  
学年で作成した「家庭学習の手引き」(5年生)

家庭学習の手引き 5学年用

「家庭学習の心構え」  
①学習する時間と場所を決め、毎日決まった時間に学習しましょう。  
②決まらぬ日は学習しましょう。

「家庭学習のやりかた」  
①目標は、親と相談して決めます。無理のないように学習内容を設定し、記入します。  
②学習が終わったら、親と話し合います。  
③お褒めや励ましをもらって、自信を持って学習しましょう。  
④学習の進捗を記録しましょう。

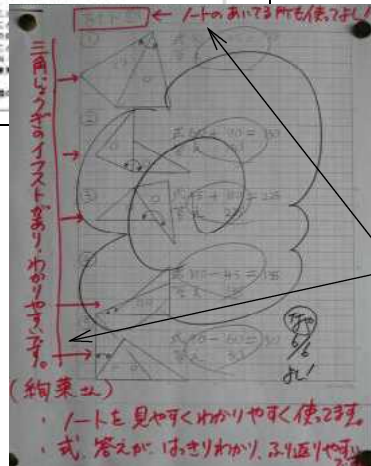
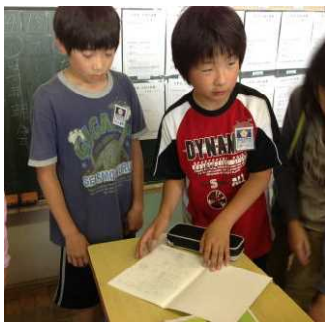
学習内容例

算数があそびます。算数は、算数の教科書やワークシートを使って学習します。算数の教科書やワークシートは、算数の教科書やワークシートを使って学習します。

①算数の教科書やワークシートを使って学習します。  
②算数の教科書やワークシートを使って学習します。  
③算数の教科書やワークシートを使って学習します。  
④算数の教科書やワークシートを使って学習します。

「算数」  
①算数の教科書やワークシートを使って学習します。  
②算数の教科書やワークシートを使って学習します。  
③算数の教科書やワークシートを使って学習します。  
④算数の教科書やワークシートを使って学習します。

5年生  
ノート  
交流会

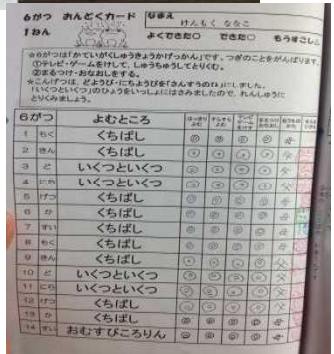


4年生  
一人勉強ノート  
紹介コーナー



4年生  
ノートの紹介

ノートの使い方のよさをコメント。



1年生 音読カード

【成果】

- 数値目標について  
今年度6年生の平成28年度県学調と今年度全国学調の結果を右に示す。
  - 国語「書くこと」領域については、A問題で目標である県比100を達成することができた。全教科において「書くこと」を位置付けた授業を実践してきた成果である。
  - 算数B問題においては、全ての領域において県比100を達成できた。A問題においては県比100に達することはできなかったが、昨年度より県比ポイントが概ね上昇している。
  - 質問紙においては、今年度の目標に掲げていた「授業の目標」「授業の振り返り活動」の項目において数値を高めることができた。学力向上アクションプランで「学習課題の設定」「振り返り活動の位置付け」を掲げて授業改善を推進してきたことが、成果として現れてきていると感じる。
- 授業改善について
  - 校内研究会において全教員で各種調査の問題を解いたり、問題の分析を行ったりすることで、本校の課題と課題解決のための共通実践について共有することができ、教師一人一人が主体的に授業改善に取り組むことができた。
  - 校内研究において、「意欲の喚起」「学び合いの有用感」を共通課題として取り組んだ年2回の授業公開により、児童の自己肯定感や学ぶ意欲を高められるような授業を目指すことができた。また校内研究に位置付けた「リフレクション」により、授業実践がその場で終わるのではなく、日常の授業に生かされることを全員が認識し、授業改善に取り組むことができた。

平成29年度第6学年の調査結果

教科・領域	正答率県比	
	28県学調	29全国学調
国語：書くこと	70.1	A 102.5 B 91.9
算数：数と計算	94.2	94.9 105.9
算数：量と測定	99.4	96.5 103.3
算数：図形	89.9	97.6 136.0
算数：数量関係	91.4	95.6 102.2
質問紙結果：肯定回答率県比		
授業の中で目標を示すこと	66.6	83.9
振り返り活動を行うこと	75.0	77.8